

人間の安全保障(Human Security ヒューマン・セキュリティ)を考える

— 「保護(Protectプロテクト)」と「能力強化(Empowerment エンパワーメント)」をめざして—

開倫ユネスコ協会
会長 林 明夫

Q 開倫ユネスコ協会が設立の基本理念としている「人間の安全保障」とは、どのような考えなのですか。

A (林明夫。以下略)「安全保障」というと、国家の安全を保障する「国家の安全保障」を思い浮かべる方が多いと思います。言うまでもなく、「国家の安全保障」は大切ですが、この「国家の安全保障」を補完し、一人ひとりの人間に焦点をあてた「人間の安全保障」も大切です。

日本政府の発案によって設立した「人間の安全保障委員会」は、「人間の安全保障」を「人間の生にとってかけがえのない中枢部分を守り、すべての人の自由と可能性を実現すること」と定義しています。

Q どういうことですか。

A 「人間の安全保障」とは、人が生きていく上でなくてはならない基本的人権を擁護し、広範かつ深刻な脅威や状況から人間を守ることです。

Q 「人間の安全保障」の目標は何ですか。

A 人間の生き方を決定するのは、その人自身であります。一人ひとりの人間が、人生のあらゆる局面で十分な情報に基づいた選択を行い、自分や社会のために行動することが、「人間の安全保障」の目標です。

そのためには、一人ひとりの個人や社会の潜在能力を伸ばすことが大切です。

Q 「人間の安全保障」は、どのような点で「国家の安全保障」を補完しますか。

- A**
- ①「国家の安全保障」は、外敵からの攻撃から国家を守ります。
 - ②「人間の安全保障」は、「多様な脅威(環境汚染、国際テロ、大規模な人口移動、HIV エイズをはじめとする感染症、長期にわたる抑圧や困窮など)」から一人ひとりの人間を保護することに焦点をあてます。
 - ③国家のみが安全保障の担い手である国家安全保障の時代は終わり、「多様な脅威」に対しての「人間の安全保障」の実現には、国際機関、地域機関、非政府機関(NGO)、非営利組織(NPO)、社会起業家、市民社会など「多様な担い手」が役割を担っています。
 - ④「人間の安全保障」の実現のためには、「保護」をこえて、一人ひとりの人間が自らを守るための「能力強化」が必要であります。

Q 「保護」とは何ですか。

A 「人間の安全保障」実現の第一歩は、一人ひとりの人間を危険から巧みに「保護」すること。「保護」のためには、「基本的人権の尊重」を掲げ、国際社会や国家による規範づくり、手続きの整備、制度づくりが欠かせません。人々に危険が生じる前に、現存制度の欠陥を見出し、これを強化改善すること。そのためには、人々がこれらの戦略策定に参画し、自ら実施していくことが必要。

Q 「能力強化」とは何ですか。

A 「人間の安全保障」実現のために「保護」と同じように必要不可欠なことは、一人ひとりの人間が自らのために、また自分以外の人間のために行動する能力を伸ばすこと、つまり「能力強化」。「能力強化」によって、一人ひとりの人間が個人としてだけでなく社会としての潜在能力までも開花させます。

自分自身の尊厳が冒されれば、「能力強化」された人間はこれを尊重するように他人に求めるようになります。また、「能力強化」された人間は、新しい雇用機会を見出し、自分で多くの問題を解決することができます。更に、「能力強化」された人間は、たとえば食糧不足を早い段階で警告したり、飢饉(ききん)を未然に防止したりすることを通じて、自分以外の人間の安全にも貢献できます。

Q 最後に一言どうぞ。

A 日本政府が日本の ODA の基本に「人間の安全保障」をおいたのは、素晴らしい政策判断と考えます。

「人間の安全保障」、とりわけ「保護」と「能力強化」にとって欠かすことのできないことは、「基礎教育」、「中等教育」、「高等教育」であると確信いたします。世界には、文字の読み書きのできない人々が数十億人存在します。まずは、すべての人々に「基礎教育」、つまり「読み・書き・計算能力」を。「基礎教育」で識字率を高めた上で、「英語とコンピュータによるコミュニケーション能力」と「専門知識」を身に付けるために「中等教育」と「高等教育」をすべての人々と希望します。そして ITC(情報通信によるコミュニケーション)を最大活用して、「フラット化した世界」で能力を最大限発揮し、自己責任、選択肢の豊富な人生を一人ひとりが歩んで頂きたいと希望いたします。

「人間の安全保障」はそのために役立つ考えであります。

参考文献

緒方貞子 アマルティア・セン著

人間の安全保障委員会報告書「安全保障の今日的課題」朝日新聞社 2003 年刊